

二十四節気 **白露**

(9月7日)

七十二候 **鵲鵲鳴** (せきれいなく)

(9月12日)

玄鳥去 (つばめさる)

(9月18日)

報告者 上田真佐江

1 季節の移ろい **白露**

夜間は気温が下がって、しのぎやすい季節になりました。雲がない日は放射冷却により朝露、夜露がみられるようになります。季節は、実りの秋へ。



コナラ 小櫓 ブナ科



カラスウリ 烏瓜
ウリ科



サワフタギ 沢蓋木 ハイノキ科



コムラサキ 小紫 シソ科



イヌビワ 犬枇杷 クワ科
イチジク属



ウメモドキ 梅擬 モチノキ科



ガマズミ 莢蒾 レンブクソウ科



タラノキ 榎木 ウコギ科



葉柄の基部
に棘が対生。
イヌザン
ショウはこ
れが互生。

サンショウ 山椒 ミカン科

赤い実をかじると口に中にシビレ
が...サンショオールが効いたよう。
香辛料、生薬として利用されます。



クリ 栗 ブナ科



ゴンズイ 権草

ミツバウツギ科
アカスジキンカメムシ (幼虫)
もいます！



イヌハギ 犬萩
マメ科
千葉県 要保護生物 (C)



マルバハギ 丸葉萩
マメ科



ヌマガヤ 沼茅 イネ科
千葉県 重要保護生物 (B)
貧栄養湿地に生育。花穂が出ました。



ホンシラタアブ ハナアブ科
撮影 徳永さと子
蜜があるのは細く丸まった花の奥...渦巻き状の距の部分。



アキノタムラソウ
秋の田村草
シンソ科

ワタラセツリフネソウ 渡良瀬釣舟草 ツリフネソウ科
中央内側に飛び出している小花弁の先が黒ずむのがこの種の特徴。道路に面した草地でも群生しています。草地の維持もNPOの大切な保全活動です。



ササクレヒトヨタケ
ハラタケ科



ハナオチバタケ
ホウライタケ科



ノウタケハラタケ科
脳みそみたい!?穴はムシがあけたか!



キツネノマゴ 狐の孫
キツネノマゴ科
果実が膨らんできました。



アオオビハエトリ
ハエトリグモ科
撮影 徳永さと子



ハナグモ カニグモ科
花は、アカネ アカネ科
撮影 徳永さと子



イオウイロハシリグモ (親と子供達)
キシダグモ科
撮影 徳永さと子



コバネイナゴ
バッタ科
撮影 徳永さと子



コハンミョウ
オサムシ科
撮影 徳永さと子



ヒカゲチョウ
タテハチョウ科
撮影 徳永さと子



ササコナフキツノアブラムシ
アブラムシ科 撮影 徳永さと子
アブラムシの出す蜜を求めてアリが集まります。結果的に、アブラムシはアリによって天敵からガードされることに。



セスジスズメ (幼虫)
スズメガ科 撮影 徳永さと子

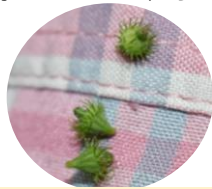


ニホントカゲ (幼虫)
トカゲ科 撮影 徳永さと子

くっつき虫たち 果実が動物にくっつき種子が散布される植物たち。もう、しっかり服にくっつきました。



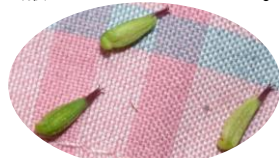
イノコヅチ ヒユ科



キンミズヒキ バラ科



ヌスビトハギ マメ科



ハエドクソウ
ハエドクソウ科

2 ナラ枯れ調査 2020年8月に園内でナラ枯れの被害が認められ、12月までの調査で52本（コナラ49本）の被害木を確認し、伐採、カシノナガキクイムシの脱出防止を目的にネットを巻く等の対策がとられました。今回は、新たにカシノナガキクイムシの被害にあったと考えられる木を見つけることを目的に、調査を開始しました。

調査方法：樹幹下部を中心に穿入口がある木を被害木とし、フラス、葉の状態を確認して、胸高直径を計測。

結果（9月12日）：図1の範囲を確認し、27本の被害木を確認。



図1：2021年9月12日調査範囲

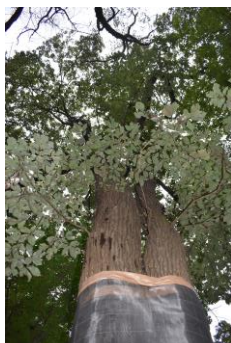


新たな被害木 穿入口からのフラス

2020年ナラ枯れ被害木、様々



葉が枯れてしまった木



青々と葉を茂らせた木



落枝、倒木の危険があり、ネットより上部が除かれた木

複数のキノコなど菌類が付き、分解が進行中。

参加者 計7名